精神科領域専門医研修プログラム

■　専門研修プログラム名：旭川医科大学病院連携施設　精神科専門医研修プログラム

■　プログラム担当者氏名：　吉澤　門土

住　　所：〒　078　－　8510　北海道旭川市緑が丘東２条１丁目１－１

電話番号：　0166 -　68　-　2473

ＦＡＸ：　0166 -　68　-　2479

E-mail：　mondo-yo@asahikawa-med.ac.jp

■　専攻医の募集人数：（　３　）人

■　応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う

宛先：〒078-8510　旭川市緑が丘東２条１丁目１－１

旭川医科大学医学部精神医学講座

TEL：0166-68-2473

FAX：0166-68-2479

担当者：吉澤　門土

■　採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

Ⅰ　専門研修の理念と使命

１．　専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

２．　使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良

質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

３．　専門研修プログラムの特徴

基幹病院である旭川医科大学病院は、北海道のほぼ真中に位置する人口約 35 万人の中核都市 旭川市に昭和 51 年に開院されました。北海道の約 70%に相当する道東・道北地域における唯一の特定機能病院として高度先進医療を展開するとともに、救急医療や地域医療の拠点病院としての役割を担っており、平成 23 年には災害拠点病院の指定も受けています。また、平成 17 年からは日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を受けています。

旭川医科大学病院精神科神経科の診療は開院と同時に開始され、統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症はもちろん、てんかんや睡眠障害などの診療・研究に精力的に取り組んでいます。また、総合病院精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学にも力を注いでおり、せん妄に対する治療的介入、身体合併症例、症状性を含む器質性精神障害の症例なども十分に経験することが出来ます。このほか、日本老年精神医学会認定医療施設、日本睡眠学会認定医療機関Ａ型（睡眠障害全般を診療対象とする医療機関）、日本てんかん学会認定研修施設に認定されており、「老年精神医学」、「睡眠医学」、「てんかん学」の各分野について、それぞれの専門医から直接指導が受けられます。

専攻医は主に入院患者の主治医となり、研修指導医によるマンツーマンでの指導を受けながら精神科的診断・治療の基本的知識や技術を身につけ、さらに定例病棟回診やカンファレンスなどを通じて精神疾患に対する幅広い知識を習得することが出来ます。また、精神保健福祉士、臨床心理士、看護師など多職種によるチーム医療の一員として患者支援に携わり、精神科的ケアについて学びます。

精神科病床は個室を中心に 31 床（開放 7 床、閉鎖 24 床）有しており、このうち開放病棟の 2 床は「精神・行動・生体現象モニタリングルーム」と呼ばれる専用検査室として年間約 200 件のビデオ・ポリソムノグラフィ（V-PSG）が施行されています。てんかんや睡眠障害の診断・病態解明などに活用され、そのデータから得られた貴重な知見はこれまでに多くの著書や論文として公表されています。専攻医は、脳波、V-PSG、脳 MRI、脳血流 SPECT などの専門的検査に習熟するとともに、経験した興味深い症例についての学会発表や論文執筆を通じて、プレゼンテーション技術の向上や研究への素養を積むことが出来ます。

連携施設である旭川圭泉会病院は昭和 32 年に開設され、399 床を有する地域における精神科の中核病院です。旭川市および近隣市町村における精神科救急医療の中心的役割を担っており、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）に則った非自発的入院（医療保護入院や措置入院など）の症例や行動制限（隔離・身体拘束）の必要な症例などを多数経験することが出来ます。また、日本老年精神医学会認定医療施設や認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症をはじめとする老年期精神疾患の診断、各種心理検査、および治療

について専門医から学ぶことが出来ます。さらに、児童・思春期症例に対する精神療法、統合失調症やうつ病患者に対する特殊治療である修正型電気けいれん療法についても習熟することが出来ます。このほか、デイ・ケア、デイ・ナイト・ケア、精神科訪問看護、自立訓練施設、グループホーム、就労支援施設、北海道や旭川市から委託された指定相談事業・地域活動支援センターの展開など精神障害者の社会復帰とその支援に力を注いでおり、地域精神医療の実践について学びます。

連携施設である相川記念病院は、昭和 12 年に北海道 道北圏における最初の精神科神経科医院として開院され、同地域における精神科医療の先駆的病院です。病床は 139 床（このうち指定病床数は３床）有しており、統合失調症、気分障害、認知症、アルコール依存症患者の割合が高い。大規模型デイ・ケアが行われており、主に慢性期精神障害に対する治療と精神科リハビリテーションについて学ぶことが出来ます。アルコール依存症治療病棟や依存症治療プログラムがあり、また、断酒会とのつながりも強く、アルコール・薬物依存に対する包括的治療を学ぶことが出来ます。

連携施設である市立旭川病院は、道北地区の基幹病院として医療サービスを提供しています。特に総合病院の精神科として地域の精神医療を支えています。精神科医療全般に対応していますが、近年は児童思春期外来に力を入れており、初診患者の 32.4%と児童から老年期まで多くの症例を経験することができます。また、臨床治験に関する研究にもふれることができ、論理的・科学的思考法を修得することが可能です。研修医の評価について EPOC(臨床研修評価システム)を導入し相互評価を行っています。

連携施設である名寄市立総合病院は、道北地区の特に北部を中心とした基幹病院として医療サービスを提供しています。精神科においては、うつ病や統合失調症をはじめとして精神科全般の診療を行うとともに、他科と協働してリエゾン・コンサルテーション精神医学を行っています。近年は精神科リハビリテーションの拡充を目指しており、精神科作業療法や精神科デイケア、生活技能訓練（SST）などを行っており、多職種との連携も経験することができます。

以上、基幹病院および連携施設での研修を通じて、精神科専門医として身につけるべき知識、技術、および態度を習得することが出来るプログラムになっています。なお、本プログラムによる研修を通じて、精神保健指定医の取得に必要な症例をすべて経験することが出来るようになっています。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

１． プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：18 人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3798	409
F1	453	91
F2	4595	563
F3	3557	294
F4　F50	2234	117
F4 F7 F8 F9 F50	2772	187
F6	83	13
その他	984	69

２．　連携施設名と各施設の特徴

Ａ　研修基幹施設

・施設名：旭川医科大学病院

・施設形態：公的病院

・院長名：古川　博之

・プログラム統括責任者氏名：田村　義之

・指導責任者氏名：田村　義之

・指導医人数：（　4　）人

・精神科病床数：（　31　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	212	21
F1	28	2
F2	660	26
F3	744	20

F4　F50	604	34
F4 F7 F8 F9 F50	716	41
F6	12	2
その他	592	51（てんかん、睡眠障害）

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症はもちろん、てんかんや睡眠障害などの診療・研究に精力的に取り組んでいます。また、総合病院精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学にも力を注いでおり、せん妄に対する治療的介入、身体合併症例、症状性を含む器質性精神障害の症例なども十分に経験することが出来ます。また、日本老年精神医学会認定医療施設、日本睡眠学会認定医療機関A型、日本てんかん学会認定研修施設に認定されており、「老年精神医学」、「睡眠医学」、「てんかん学」の各分野について、それぞれの専門医から直接指導が受けられます。

てんかんや睡眠障害の診断・病態解明などを目的として、ビデオ・ポリソムノグラフィ（V-PSG）は年間約 200 件施行されています。また、精神科のほか呼吸器内科、耳鼻咽喉科、小児科、歯科口腔外科など関連診療科との合同カンファレンス（睡眠医学カンファレンス）が月 1 回開催されています。専攻医は、脳波、V-PSG、脳 MRI、脳血流 SPECT などの専門的検査に習熟するとともに、経験した興味深い症例についてカンファレンスや学会での発表、論文執筆を通じて研究への素養を積むことが出来ます。

B　研修連携施設

①　施設名：医療法人社団圭泉会　旭川圭泉会病院

・施設形態：民間病院

・院長名：直江　寿一郎

・指導責任者氏名：猪俣　光孝

・指導医人数：（　9　）人

・精神科病床数：（　399　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1835	221
F1	120	41
F2	1107	178
F3	1025	137
F4　F50	502	25
F4 F7 F8 F9 F50	496	35
F6	25	4
その他	60	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
北海道、道北地区の精神科救急に幅広く対応していることから、急性期精神疾患の症例等も豊富に学ぶことができる。児童から老年期、任意入院から措置入院、身体合併症など対象疾患は多岐に及んでいる。入院症例は認知症、統合失調症、気分障害、物質依存など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患についてカバーしている。医療観察法指定医療機関であることから、鑑定入院、指定通院者も受け入れている。精神科における一般的な疾患についての知識や基本的技能、薬物療法､行動制限の手順など基礎的な技能と法的な知識を学ぶことができる｡また、身体合併症病棟を有しており、内科的な身体管理も内科医の指導のもとに行われている。さらに、北海道や旭川市より委託を受けた指定相談事業や地域活動支援センターを展開しており、積極的に社会復帰に向けた医療を実践している。

病棟種別等：精神科救急入院料病棟、精神病棟入院基本料（病棟機能：身体合併治療、精神科長期治療、精神科回復期治療）認知症治療病棟、精神科作業療法、応急指定、認知症疾患医療センター、精神科救急輪番

関連施設等：精神科デイ・ケア、精神科デイ・ナイト・ケア、重度認知症患者デイ・ケア、精神科訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅介護・重度訪問介護・移動支援事業、宿泊型自立訓練、グループホーム、指定一般相談支援事業、指定特定相談支援事業、指定障害児相談支援事業、地域活動支援センター、就労移行支援、就労継続支援Ｂ型

②　施設名：医療法人社団志恩会　相川記念病院

・施設形態：民間病院

・院長名：中條　拓

・指導責任者氏名：中條　拓

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　　116　　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	359	67
F1	240	31
F2	497	90
F3	364	29
F4　F50	151	2
F4 F7 F8 F9 F50	237	7
F6	10	1
その他	29	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

単科の精神病院であるため、統合失調症の慢性期の患者さんが多いが、平成 26 年に道北圏域で 2 か所目の認知症疾患医療センターの指定を受けたため、認知症の患者さんが急増している。また、前院長がアルコール依存症の患者さんの診療に力を入れていたため、アルコール依存症の患者さんの比率も高い。最近は気分障害圏の患者さんも増えてきている。人格障害圏の患者さんの比率は少ない。

③　施設名：市立旭川病院

・施設形態：公的病院

・院長名：斉藤　裕輔

・指導責任者氏名：武井　明

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　100　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	710	51
F1	28	10
F2	2025	201
F3	864	62
F4　F50	395	30
F4 F7 F8 F9 F50	1012	98
F6	30	3
その他	0	0

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

総合病院の承認を受けており地域住民、旭川の基幹病院として医療サービスを提供している。特に精神科病棟は、精神科救急医療施設、指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療・精神通院医療)合併症受入協力病院、後方病院等の指定を受けており、急性期から亜急性期、回復期、慢性期をカバーしている。措置入院、医療保護入院など非自発入院の症例や、身体拘束、隔離など行動制限を要する場面もある。児童思春期外来を開設していることから、児童から老年期等、精神科全般の診療を学ぶことができる。また医療連携にも力を入れており、住民向けの講習会、啓蒙活動、ケアマネージャーなど多職種を対象とする地域連携研修会の開催や地元ケーブルテレビに独自の番組を持つなど地域の中核的な病院として機能を発揮している。このような研修会に参加することで、地域医療の中で精神科が果たすべき役割について考える機会を得ることができる。

④　施設名：名寄市立総合病院

・施設形態：公的病院

・院長名：室野　晃一

・指導責任者氏名：野口　剛志

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　　55　　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	682	49
F1	37	7
F2	386	68
F3	530	46
F4　F50	582	26
F4 F7 F8 F9 F50	311	6
F6	6	3
その他	303	8

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

総合病院の承認を受けており道北北部地域住民の基幹病院として医療サービスを提供している。精神科病棟は地域の要望に沿ったサービスを提供しており、入院では精神科作業療法､外来では精神科デイケア等の社会復帰に向けたリハビリを強化している。また医療・福祉制度などの相談窓口や心理療法、訪問看護、集団精神療法、生活技能訓練等を実施しており、外来・入院から退院、さらに退院後の生活支援にいたるまでの幅広い精神医療を実践している。また、任意入院のみならず医療保護入院や措置入院等も経験できる｡医療連携にも力を入れており､病院の役割を明確にしており、地域での医療ニーズを的確に把握し、関係医療機関等との連携を深めている。啓発活動では市民講座の開催や市の広報誌等を通じて積極的に行われている｡このような活動を体験することで､地域医療の中で精神科が果たすべき役割について考える機会を得ることが出来る。

３．　研修プログラム

１）　年次到達目標

専攻医は、精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって、以下の領域について専門的知識・技術・態度を習得する。

1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念や病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補

助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。
各年次の到達目標は以下の通りである。

・1 年目：基幹病院において、研修指導医と一緒に統合失調症、気分障害、症状性を含む器質性精神障害、てんかん、睡眠障害などの患者を担当し、精神医学的面接、診断と治療計画、脳波や脳画像検査の評価、薬物療法および精神療法の基本を学ぶ。精神神経学的現在症を正確に把握し、疾患概念や病態についての理解を深めるとともに、適切な医師 - 患者関係の構築について学ぶ。また、外来では指導医の診察に陪席して、面接技法、患者・家族との関係構築、基本的な心理検査の評価などについて学習するとともに、コンサルテーション・リエゾン精神医学を経験する。このほか、カンファレンスではプレゼンテーション技術についても学習し、興味深い症例に対しては学会発表の機会をもつ。

・2 年目：連携施設において、研修指導医による指導のもと、面接技術、診断と治療計画の能力、精神療法や薬物療法などの治療技法を向上させる。また、児童・思春期症例やパーソナリティー障害に対する精神療法、統合失調症やうつ病患者等に対する修正型電気けいれん療法について経験する。精神科救急（精神科救急輪番当直など）に従事し、精神科医療に必要な法律（精神保健福祉法、心神喪失者医療観察法など）の知識、非自発的入院や行動制限が必要な症例の対応と手順について学習することを通じて、医の倫理や安全管理について学ぶ。

・3 年目：連携施設において、研修指導医から自立して診療できるようになる。統合失調症、気分障害、認知症のほか、神経症性障害、精神遅滞・発達障害、アルコール・薬物依存患者の診断・治療を経験する。また、慢性期精神障害に対する精神科リハビリテーション、デイ・ケア、グループホームなど地域精神医療の現場に足を運び、他職種によるチーム医療を経験する。このほか、3 年間の研修で経験した興味深い症例について学会発表や論文執筆をおこなう。

２）　研修カリキュラムについて
研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

３）　個別項目について

①　倫理性・社会性

基幹病院である旭川医科大学病院において他科の専攻医とともに研修会が開催される。また、コンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任、社会性、倫理観などを先輩医師や他の医療スタッフから学ぶ。

②　学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽・自己学習することが求められる。すなわち、研修期間を通じて与えられた症例について、日常診療のなかで生じる課題を日々の学習によって積極的に解決しようとする、あるいは解決の糸口をみつけようとする態度が求められる。また、経験した症例と類似の症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がけ、興味深い症例については、研修指導医による指導のもと地方会や全国学会で発表する。

③　コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、１）医師‐患者関係の構築、２）多職種によるチーム医療の実践、３）安全管理、４）症例プレゼンテーション技術、５）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標として医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに、精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法など、精神科医としてのコンピテンシー獲得を目指す。

④　学術活動（学会発表、論文の執筆等）

北海道精神神経学会、日本精神神経学会、日本てんかん学会北海道地方会、日本てんかん学会、日本睡眠学会、日本老年精神医学会などに参加する。興味深い症例については、研修指導医による指導のもと積極的に学会発表や論文執筆をおこなう。

⑤　自己学習

図書館等にある書籍・資料（精神医学の成書、関連著書、学術雑誌など）、指導医より推薦された必読図書、およびインターネット検索により入手した文献・医学情報（ガイドライン等）などを用いて自己学習する。また、日本精神神経学会学術総会などによるワークショップやシンポジウム、各種講演会・講習会などへの参加を通じて、精神医学についてより広く、より深く学習する。

４）　ローテーションモデル

専攻医研修マニュアルに沿って各施設を次のようにローテーションし、年次ごと

の学習目標に従った研修をおこなう。

１年目：基幹病院
２年目：連携施設
３年目：連携施設

基本的ローテーションモデルは、1 年目に基幹病院である旭川医科大学病院で精神科医としての基本的知識・技術・態度を身につける。２～３年目には連携施設を各１年ずつローテーションし、より多くの症例を幅広く経験しながら、知識・技術の向上をはかる。なお、連携施設のローテーション順や研修期間については、本人の希望、その他の状況に応じて柔軟に対応する。

５）　研修の週間・年間計画

別紙１と別紙２を参照

４．　プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会
- 委員長　医師：田村義之
- 医師：吉澤門土
- 医師：猪俣光孝
- 医師：中條　拓
- 医師：武井　明
- 医師：野口剛志
- 看護師：坂戸美静
- 精神保健福祉士：武田彩未

・プログラム統括責任者
田村義之

・連携施設における委員会組織
研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

５．　評価について

１）評価体制

旭川医科大学病院：田村義之、高崎英気、吉澤門土、吉原慎佑
旭川圭泉会病院：猪俣光孝
相川記念病院：中條　拓
市立旭川病院：武井　明
名寄市立総合病院：野口　剛志

２）評価時期と評価方法

・　３か月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
・　研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ６か月ごとに評価し、フィードバックする。
・　１年後に１年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に報告する。
・　専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

３）研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年１回おこなう。

基幹病院である旭川医科大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医専門医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って各分野の形成的評価をおこなう。研修を修了しようとする年度末には総括的評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って各分野の形成的評価をおこなう。評価者は、「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目について、必ず改善のためのフィードバックをおこな

うとともに、記録して翌年度の研修に役立たせる。

６．　全体の管理運営体制

１）　専攻医の就業環境の整備（労務管理）

基幹病院については、労務管理基準に準拠する。
連携施設については、各施設の就業規則に則って勤務する。

２）　専攻医の心身の健康管理

各施設で行われる定期健康診断（年１回）のほか、心身の不調がある場合には研修指導医を通じてしかるべき部署で対応する。

３）　プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

４）　ＦＤの計画・実施

プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価する（年１回)。

別紙１：週間計画

週間スケジュール
①旭川医科大学病院

	月	火	水	木	金
8:30-8:50	医局カンファレンス ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
9:00-12:00	病棟業務・ 外来勤務（再来）	外来勤務（新患陪席）	病棟業務	外来勤務（新患陪席）	病棟業務
13:00-17:15	病棟業務・ 外来勤務（再来）	病棟業務・ 教授回診（16:00-17:00）	病棟業務	病棟業務・ 外来勤務（再来）	病棟業務
18:00-20:00		医局会議 教室行事（症例検討・研究報告・学会予行・抄読会など）	睡眠医学カンファレンス （月１回、18:30-20:00）		

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

別紙１：週間計画

週間スケジュール
②旭川圭泉会病院

	月	火	水	木	金	土
午前	ミーティング m-ECT 実習 外来予診 外来陪席	医局勉強会 ミーティング m-ECT 実習 外来予診 外来陪席	医局勉強会 ミーティング m-ECT 実習 外来予診 外来陪席	医局勉強会 ミーティング m-ECT 実習 外来予診 外来陪席	ミーティング m-ECT 実習 外来予診 外来陪席	
午後	病棟業務 各種専門領域に関するクルズス	病棟業務 各種専門領域に関するクルズス	病棟業務 各種専門領域に関するクルズス	病棟業務 各種専門領域に関するクルズス	病棟業務 各種専門領域に関するクルズス	
各種委員会等	医局会議	薬説明会 （不定期）	症例検討会	画像検討会 （不定期）		
5 時以降	医局会議 自己学習 論文及び学会発表資料作成	薬説明会 自己学習 論文及び学会発表資料作成	症例検討会 自己学習 論文及び学会発表資料作成	画像検討会 自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	

別紙１：週間計画

週間スケジュール
③相川記念病院

	月	火	水	木	金	土
8:10～8:45	小回診	小回診	小回診	小回診	小回診	小回診
8:45～9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	
9:00～12:00	外来診療	病棟回診	外来診療	病棟回診	外来診療	書類整理
13:00～17:00	外来診療 新患カンファレンス	病棟回診 各種会議	外来診療	病棟回診	書類整理	
17:10～		研修会				

別紙１：週間計画

週間スケジュール
④ 市立旭川病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席 作業療法	病棟総回診	外来予診 外来陪席	
午後	病棟総回診 病棟業務 作業療法 m-ECT 実習	病棟業務 病棟レクレーション 児童相談所	病棟業務 作業療法	病棟カンファレンス 病棟業務	病棟カンファレンス 病棟業務	
各種委員会等	医局カンファレンス		抄読会		訪問看護 症例検討会	
5 時以降	医局カンファレンス	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	

別紙１：週間計画

週間スケジュール
⑤ 名寄市立総合病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席	外来予診 外来陪席	
午後	病棟総回診 病棟業務 作業療法	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 作業療法	病棟業務 病棟カンファレンス	
各種委員会等	医局カンファレンス		症例検討会		症例検討会	
5時以降	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	自己学習 論文及び学会発表資料作成	

別紙２：年間計画

年間スケジュール
①旭川医科大学病院

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加（任意）
7 月	北海道精神神経学会参加・演題発表、日本睡眠学会参加・演題発表（任意）
8 月	
9 月	日本てんかん学会北海道地方会参加・演題発表（任意）
10 月	
11 月	日本てんかん学会参加・演題発表（任意）
12 月	北海道精神神経学会参加・演題発表
1 月	
2 月	日本てんかん学会北海道地方会参加・演題発表（任意）
3 月	研修プログラム評価報告書の作成
その他	医療安全管理部や感染制御部が開催する医療安全や感染対策等の研修会に参加

別紙２：年間計画

年間スケジュール
②旭川圭泉会病院

4 月	
5 月	病院協会・診療所協会合同研修会
6 月	日本精神神経学会総会
7 月	病院協会・診療所協会合同研修会
8 月	
9 月	病院協会・診療所協会合同研修会
10 月	
11 月	病院協会・診療所協会合同研修会
12 月	日本精神科救急学会学術総会
1 月	
2 月	病院協会・診療所協会合同研修会
3 月	

別紙２：年間計画

年間スケジュール
③相川記念病院

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加、旭川精神医学研究会学術研修会参加
7 月	北海道精神神経学会参加
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	旭川精神医学研究会学術研修会参加
12 月	北海道精神神経学会参加
1 月	旭川連合断酒会新年会参加
2 月	大雪断酒学校参加
3 月	研修のまとめ

別紙２：年間計画

年間スケジュール
④ 市立旭川病院

4 月	
5 月	症例検討会
6 月	日本精神神経学会総会
7 月	病院協会・診療所協会合同研修会
8 月	
9 月	症例検討会
10 月	
11 月	
12 月	病院協会・診療所協会合同研修会
1 月	
2 月	精神療法勉強会
3 月	

別紙２：年間計画

年間スケジュール
⑤ 名寄市立総合病院

4 月	症例検討会
5 月	病院協会・診療所協会合同研修会
6 月	日本精神神経学会総会
7 月	
8 月	症例検討会
9 月	
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会総会
12 月	
1 月	
2 月	症例検討会
3 月	